

# Ⅲ

## 大会概要

1.大会ビジョン

2.大会概要

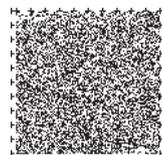
3.組織体制

4.競技

5.会場

6.持続可能性

7.参画プログラム



## Ⅲ. 大会概要

### 1. 大会ビジョン

#### スポーツには 世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。  
2020年の東京大会は、  
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、  
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、  
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」  
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、  
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

#### 【3つの基本コンセプト】

##### 「全員が自己ベスト」

万全の準備と運営によって、安全・安心で、すべてのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮し、自己ベストを記録できる大会を実現。

世界最高水準のテクノロジーを競技会場の整備や大会運営に活用。

ボランティアを含むすべての日本人が、世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎。

##### 「多様性と調和」

人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩。

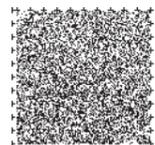
東京2020大会を、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会とする。

##### 「未来への継承」

東京1964大会は、日本を大きく変え、世界を強く意識する契機になるとともに、高度成長の弾みとなった大会。

東京2020大会は、成熟国家となった日本が、今度は世界にポジティブな変革を促し、それらをレガシー\*として未来へ継承していく。

\*東京2020大会の「レガシー」とは？  
2020年のオリンピック・パラリンピック開催後に残る有形・無形にかかわらず、さまざまな社会的・文化的遺産のこと。



### 2. 大会概要

#### 2020年、東京・日本は世界最高の舞台となる

東京1964大会から半世紀を経て、東京・日本に再び夏のオリンピック・パラリンピックがやってきます。東京2020大会では、世界中から数多くの選手や大会関係者、観客が東京・日本を訪れます。大会を通じて、日本中、世界中に興奮と感動を呼び起こし、「記録」と「記憶」が人々の心にいつまでも残る素晴らしい大会としていきましょう。

#### 【オリンピック競技大会開催概要】

正式名称：第32回オリンピック競技大会（2020 / 東京）

英文名称：Games of the XXXII Olympiad

開催期間：2020年7月24日（金）～8月9日（日）

競技数：33競技

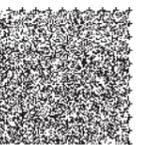
#### 【パラリンピック競技大会開催概要】

正式名称：東京2020パラリンピック競技大会

英文名称：Tokyo 2020 Paralympic Games

開催期間：2020年8月25日（火）～9月6日（日）

競技数：22競技



# Ⅲ. 大会概要

## 【東京2020エンブレム】

東京2020オリンピックエンブレム



東京2020パラリンピックエンブレム



### 組市松紋（くみいちまつもん）

歴史的に世界中で愛され、日本では江戸時代に「市松模様（いちまつもよう）」として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描きました。形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想などの違いを示す。違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージを込め、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表しています。

制作者：野老朝雄（ところ あさお）

## 【東京2020 マスコット】

東京2020オリンピックマスコット



東京2020パラリンピックマスコット



大会史上初、小学生の投票によって生まれた東京2020 マスコット。子どもたちのワクワクをエネルギーにして誕生しました。投票に参加した小学校は16,769校（海外の日本人学校等を含む）。ミライトワとソメイティはデジタルの世界に住んでいて、インターネットを使って、デジタル世界と現実の世界を自由に行き来します。

制作者：谷口亮（たにぐち りょう）

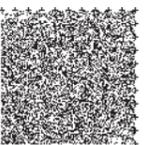
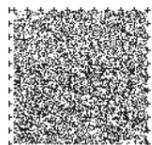
## 3. 組織体制

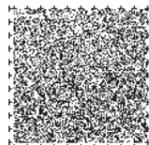
### 東京2020大会を支える体制

東京2020大会の成功に向けて、東京2020組織委員会、JOC<sup>※1</sup>、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、JPC<sup>※2</sup>、東京都、政府、経済界、その他関係団体とオールジャパン体制で大会を支えています。



※1 JOC 公益財団法人日本オリンピック委員会 (Japanese Olympic Committee)  
※2 JPC 日本パラリンピック委員会 (Japanese Paralympic Committee)





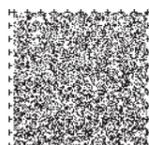
### Ⅲ. 大会概要

column

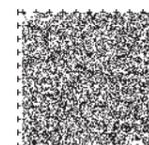
#### 【Functional Area (FA)】大会を支える機能

東京2020組織委員会は、大会運営に必要な52のFAを設置しています。それぞれのFAの機能を確認しておくことで、Field Castとして活動する際の役割をより理解できます。また、FAは三文字略語で呼ばれることも多いので、ぜひ略語もチェックしてみてください。

|    | 英語  | 略語       | 日本語   |
|----|---|----------|---|
| 1  | Accommodation   | ACM      | 宿泊  |
| 2  | Accreditation   | ACR      | アクレディテーション                                  |
| 3  | Arrivals & Departures   | AND      | 出入国   |
| 4  | Brand Protection  | BRP      | ブランド保護                                      |
| 5  | Brand, Identity & Look of the Games   | BIL      | 大会のブランド・アイデンティティ・ルック                        |
| 6  | Broadcast Services  | BRS      | 放送サービス                                      |
| 7  | Business Development  | BUS      | ビジネス開発                                      |
| 8  | Ceremonies  | CER      | セレモニー                                       |
| 9  | City Activities & Live Sites  | LIV      | 都市活動・ライブサイト                                 |
| 10 | City Operations   | CTY      | 都市運営調整                                      |
| 11 | Cleaning & Waste  | CNW      | 清掃・廃棄物                                      |
| 12 | Communications (including Digital Media and Publications)                         | COM      | コミュニケーション(デジタルメディア・出版物含む)                   |
| 13 | Communications, Coordination & Command/Control                                    | CCC      | コミュニケーション・コーディネーション・コマンド/コントロール             |
| 14 | Culture   | CUL      | 文化  |
| 15 | Doping Control  | DOP      | ドーピングコントロール                                 |
| 16 | Education   | EDU      | 教育  |
| 17 | Energy  | NRG      | エネルギー                                       |
| 18 | Event Services  | EVS      | イベントサービス                                    |
| 19 | Finance   | FIN      | 財政  |
| 20 | Food & Beverage   | FNB      | 飲食  |
| 21 | Government Relations  | GOV      | 国・自治体調整                                     |
| 22 | IF Services (included under Sport)  | INS      | IFサービス(競技に含まれる)                             |
| 23 | Information & Knowledge Management  | IKM      | 情報・知識マネジメント                                 |
| 24 | Language Services   | LAN      | 言語サービス                                      |
| 25 | Legacy  | LGY      | レガシー  |
| 26 | Legal   | LGL      | 法務  |
| 27 | Licensing   | LIC      | ライセンス                                       |
| 28 | Logistics   | LOG      | ロジスティクス                                     |
| 29 | Marketing Partner Services  | MPS      | マーケティングパートナーサービス                            |
| 30 | Medical Services  | MED      | メディカルサービス                                   |
| 31 | NOC & NPC Services  | NCS      | NOC・NPCサービス                                 |
| 32 | Olympic & Paralympic Family Services (including Dignitary Programme and Protocol) | OFS, PFS | オリンピック・パラリンピックファミリーサービス(要人へのプログラム・プロトコール含む) |
| 33 | Operational Readiness   | OPR      | 運営実践準備管理                                    |
| 34 | Paralympic Games Integration  | PGI      | パラリンピックインテグレーション                            |
| 35 | People Management   | PEM      | 人材管理  |
| 36 | Planning & Coordination   | PNC      | 計画・調整                                       |
| 37 | Press Operations  | PRS      | プレスオペレーション                                  |
| 38 | Procurement (including Rate Card)   | PRC      | 調達(レートカード含む)                                |
| 39 | Risk Management   | RSK      | リスクマネジメント                                   |
| 40 | Security  | SEC      | セキュリティ                                      |
| 41 | Signage   | SIG      | 標識・サイン                                      |
| 42 | Spectator Experience  | SPX      | 観客の経験                                       |
| 43 | Sport   | SPT      | 競技  |
| 44 | Sustainability  | SUS      | 持続可能性                                       |
| 45 | Technology  | TEC      | テクノロジー                                      |
| 46 | Test Events Management  | TEM      | テストイベントマネジメント                               |
| 47 | Ticketing   | TKT      | チケット  |
| 48 | Torch Relay   | OTR      | 聖火リレー                                       |
| 49 | Transport   | TRA      | 輸送  |
| 50 | Venue Management  | VEM      | 会場マネジメント                                    |
| 51 | Venues & Infrastructure (including Venue Development and General Infrastructure)  | VNI      | 会場・インフラ(会場運営・一般的なインフラ含む)                    |
| 52 | Villages Management   | VIL      | 選手村マネジメント                                   |



### 4. 競技



# Ⅲ. 大会概要

## オリンピック33競技一覧

東京2020オリンピックでは、33競技の開催が予定されています。本大会から、開催都市の組織委員会は、IOCに対し、その大会に限定した競技を追加実施する提案ができるようになりました。

これにより、東京2020組織委員会が提案した野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンの5競技すべてがIOCに採択され、追加競技として実施されることになりました。



|           |            |            |       |       |        |         |        |
|-----------|------------|------------|-------|-------|--------|---------|--------|
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| 水泳        |            |            |       |       | アーチェリー | 陸上競技    | バドミントン |
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| 野球・ソフトボール |            | バスケットボール   |       | ボクシング | カヌー    |         |        |
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| 自転車競技     |            |            |       |       | 馬術     |         |        |
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| フェンシング    | サッカー       | ゴルフ        | 体操    |       |        | ハンドボール  | ホッケー   |
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| 柔道        | 空手         |            | 近代五種  | ボート   | ラグビー   | セーリング   | 射撃     |
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| スケートボード   | スポーツクライミング | サーフィン      | 卓球    | テコンドー | テニス    | トライアスロン |        |
|           |            |            |       |       |        |         |        |
| バレーボール    |            | ウェイトリフティング | レスリング |       |        |         |        |

## パラリンピック22競技一覧

東京2020パラリンピックでは、22競技の開催が予定されています。本大会から、バドミントンとテコンドーが実施競技としてIPCに採用されました。

東京2020パラリンピックは22競技540種目の全実施種目に決定しました。前回のリオ2016パラリンピックと競技数は同じですが、種目が12増えて参加できる幅が広がりました。



|               |         |        |       |           |             |           |
|---------------|---------|--------|-------|-----------|-------------|-----------|
|               |         |        |       |           |             |           |
| アーチェリー        | 陸上競技    | バドミントン | ボッチャ  | カヌー       | 自転車競技       |           |
|               |         |        |       |           |             |           |
| 馬術            | 5人制サッカー | ゴールボール | 柔道    | パワーリフティング | ボート         | 射撃        |
|               |         |        |       |           |             |           |
| シットティングバレーボール | 水泳      | 卓球     | テコンドー | トライアスロン   | 車いすバスケットボール | 車いすフェンシング |
|               |         |        |       |           |             |           |
| 車いすラグビー       | 車いすテニス  |        |       |           |             |           |

# Ⅲ. 大会概要



## オリンピック33競技



### 水泳

一定の距離を決められた泳法（自由形、背泳ぎ、バタフライ、平泳ぎ）で泳いでタイムを競う競泳。東京2020大会では、800m自由形（男子）、1500m自由形（女子）、4×100mメドレーリレー（混合）の3種目が新たに加わり、種目数は35となる。種別には他に飛込、水球、アーティスティックスイミングがあり、プール以外では、10km マラソンスイミングが海などで行われる。



### アーチェリー

アーチェリー競技の種類はさまざまだが、オリンピックではターゲットアーチェリーを実施している。70m先から直径122cmの標的を狙い、中心に当たれば10点。以下、9点、8点……1点と外側に向かって点数が低くなる。オリンピック競技に初めてアーチェリーが採用されたのはパリ1900大会。パリ1924大会からしばらく外されていたが、ミュンヘン1972大会から再び正式競技として復活した。



### 野球・ソフトボール

オリンピックにおける野球は、ロサンゼルス1984大会とソウル1988大会で公開競技として実施され、バルセロナ1992大会から北京2008大会まで正式競技として採用される。ロンドン2012大会、リオ2016大会では正式種目から除外された。ソフトボールも同じくこの2大会で除外されたが、東京2020大会では両競技とも、開催都市提案による追加種目として実施されることとなった。2013年に野球とソフトボールそれぞれの国際連盟を統合し、統一団体であるWBSC（世界野球ソフトボール連盟）を設立。近年は国際大会開催、普及活動に力を入れており加盟連盟は世界140カ国以上から200団体を超える。



### バスケットボール

5人ずつの2チームが、屋内28m×15mのコートの中でスピーディーな接近戦を繰り広げるバスケットボール。オリンピックでは、男子種目はベルリン1936大会、女子種目はモントリオール1976大会から正式種目となった。東京2020大会では、新たに1チーム3人同士で得点を競う「3x3 バスケットボール（スリー・エックス・スリー バスケットボール）」が正式種目に採用された。



### 陸上競技

競技場内1周400mの走路を使って実施されるのがトラック競技。オリンピックでは短距離走、中・長距離走、ハードル競走、障害物競走、リレー競走が行われ、距離、男女別に合計25種目が実施される。その他の種別には、走高跳やハンマー投などのフィールド競技、マラソンや競歩などのロード競技、そして「究極のオールラウンダー」を決める混成競技（男子の10種競技と女子の7種競技）がある。



### バドミントン

バドミントンは、1人对1人、または2人对2人で、ラケットを使ってネット越しにシャトルを打ち合い、得点を競う競技。シャトルとは、半球状のコルクに水鳥などの羽根を固定したもの。シャトルの特性により、バドミントンはストロークの種類が多く、ラリーがスピードや変化に富んでいることが特徴だ。オリンピックではバルセロナ1992大会から正式競技となり、男女シングルス・男女ダブルス・混合ダブルスが行われている。



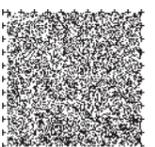
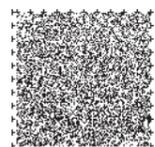
### ボクシング

四角いリング上で2人の選手がグローブをはめた拳で相手と打ち合って勝敗を決める。「いかに相手の隙について反則を伴わないでパンチを打ち込むか」というシンプルな目的のために鍛錬するストイックな精神性が際立つ競技でもある。オリンピックでの歴史は、古代オリンピックの時代までさかのぼる。近代オリンピックではセントルイス1904大会以降、ストックホルム1912大会を除きすべての大会で実施されている。女子は、ロンドン2012大会から正式種目として採用された。



### カヌー

数千年の昔から、水上の移動手段として世界各地で々に親しまれてきたカヌー。スポーツとしては、19世紀のイギリスで発展した。オリンピックでは、スプリントとスラロームの2種別があり、スプリントは、流れのない直線コースを一斉にスタートし、着順を競う。スラロームは、激流を下りながらつるされたゲートを順に通ってタイムと技術を競う。どちらにも、ブレードが片端だけにあるパドルで漕ぐカナディアンと、両端についているパドルを使うカヤックがある。東京2020大会からは、カナディアンに女子が加わり、種目数は男女同数が実現する。



## Ⅲ. 大会概要



### オリンピック33競技



#### 自転車競技

自転車競技は、オリンピック第1回大会のアテネ1896大会から正式競技として採用され、途切れることなく実施されている。アトランタ1996大会からはマウンテンバイクが、シドニー2000大会からはトラック種目に日本で発祥したケイリンが、北京2008大会からはBMXレースがそれぞれ種目に加わった。東京2020大会ではさらにトラック種目でマディソン、BMX種目でフリースタイルが追加。女子種目もロサンゼルス1984大会から採用され、ロンドン2012大会以降は男女種目同数実施が実現している。



#### 馬術

馬術は、動物を扱う唯一のオリンピック競技であり、男女の区別なく同じ条件で実施されるのが特徴。人馬ペアで競技を行うため、選手と同様に競技馬の能力も問われる。コース上に設置された大きな障害物を飛び越える「障害馬術」、演技の正確さと美しさを競う「馬場馬術」、障害と馬場の2つにクロスカントリー走行を加えた「総合馬術」の3種目が行われる。



#### ゴルフ

ゴルフは、パリ1900大会とセントルイス1904大会で開催された後、長くオリンピック競技から外れていたが、リオ2016大会で112年ぶりに復活した。競技は1ラウンド18ホールで構成され、選手は4日間で4ラウンド72ホールをプレーし、合計の打数が少ない順に上位となる。オリンピックには、国際ゴルフ連盟（IGF）が発表した世界ランキングをベースとするオリンピックゴルフランキングにより、男女それぞれ60名が出場する。



#### 体操

体操競技はアテネ1896大会から実施され、アムステルダム1928大会から女子種目も加わった。男子は「ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒」の6種目、女子は「跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか」の4種目。演技の難しさと完成度を得点化して勝者を決める。また、体操競技とは別に、リボンなどの手具を利用して芸術性を競う新体操と、空中でアクロバティックな技を競うトランポリンがある。



#### フェンシング

2人の選手が向かい合いながら、ピストと呼ばれる細長い競技エリアにて、片手に持った剣で攻防を繰り返す。フルール、エペ、サーブルの3種目において、それぞれ個人戦と団体戦が行われている。オリンピックでは、第1回アテネ1896大会から男子フルール・男子サーブルが正式採用されて以来、途切れることなく実施されている。女子種目はパリ1924大会から採用された。東京2020大会では、オリンピック競技として初めて全12種目が行われる。



#### サッカー

ボール1つあればできるサッカーは、ヨーロッパ、南米、アジア、アフリカなど大陸を問わず、世界中で広く楽しられている。オリンピックの男子サッカーは、FIFAワールドカップよりも歴史が長く、ロサンゼルス1932大会を除いてパリ1900大会から毎大会で実施されている。アトランタ1996大会からは23歳以下のチームに3名のオーバーエイジ選手を加えることができるようになった。アトランタ1996大会から加わった女子サッカーは年齢制限がなく、金メダルはワールドカップ優勝と同等のステータスを持つ。



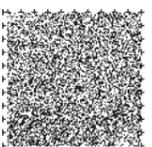
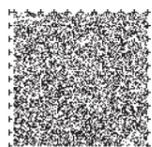
#### ハンドボール

1チーム7人ずつで得点を競うハンドボール。19～20世紀初頭のヨーロッパに起源をもち、世界へと広がったスポーツである。オリンピックではベルリン1936大会で初めて実施された後は正式競技から外れていたが、ミュンヘン1972大会から再び採用された。ミュンヘン1972大会以降は屋内で行われている。女子はモントリオール1976大会で初めて採用された。



#### ホッケー

91.4m×55mのフィールド上で、ゴールキーパー1人を含む1チーム11人からなる2チームが対戦し、スティックを使ってボールを相手チームが守るゴールへ入れて得点を競う。各15分の4クォーター（計60分）で実施され、より多くの得点を入れたチームが勝者となる。ゴール前に描かれた半径約15mのサークルと呼ばれる半円ライン内からシュートしなければならないのが独特のルール。オリンピックではロンドン1908大会から正式種目となり、モスクワ1980大会より女子ホッケーも採用されている。



# Ⅲ. 大会概要



## オリンピック33競技



### 柔道

日本発祥のスポーツ柔道は、東京1964大会で初めてオリンピックの正式競技に採用された。白か青の柔道衣を着用した選手が、10m四方の畳の上で戦う。68の「投技(なげわざ)」と32の「固技(かためわざ)」の100種類の技があり、どちらかの選手が「一本」を取れば、その時点で勝敗が決する。「一本」となるすべての要件を満たさないときは「技あり」となる。ポイントで負けていても、終了数秒前の大逆転があり得る。男女とも体重別に階級が分かれている。



### 空手

沖縄発祥の武道であり、競技スポーツとしても国際化した空手。競技には大きく分けて「形」と「組手」がある。形は、仮定の敵に対する攻撃技と防御技を一連の流れとして組み合わせた演武。組手は、8m四方の競技場で2人の選手が1対1で戦う。組手では、8ポイント差がついたときか、競技時間が終了した際のポイント差で勝者が決まる。初採用となる東京2020大会では、形が男女の2種目、組手が男女各3階級の6種目で実施される。



### ラグビー

ラグビーは、「1823年にイギリスのパブリックスクールであるラグビー校で開催されていたフットボールの試合中、ウェーブ・エリスという少年が突然ボールを抱えて相手のゴール目指して走り出したこと」が起源とされている。オリンピックでのラグビーの歴史を紐解くと、パリ1900大会、ロンドン1908大会、アントワープ1920大会、パリ1924大会で15人制ラグビーが実施され、その後長いブランクを経てリオ2016大会より7人制ラグビーとして復活した。女子ラグビーはリオ2016大会が初めての実施となった。



### セーリング

パリ1900大会から「ヨット」の呼称で実施され、シドニー2000大会からは現在の「セーリング」が競技名となっている。1660年にイギリス国王とヨーク公がレースを行ったのが競技の起源と言われ、以来主に上流階級のレジャーとしてヨーロッパ諸国に広まった。ロサンゼルス1984大会からウインドサーフィンが競技種目に加えられている。



### 近代五種

1人の選手が1日の間に、フェンシング、水泳、馬術、レーザーラン(射撃、ランニング)というまったく異なる5種目に挑戦する複合競技。近代オリンピックを提唱したクーベルタンがフランスの史実を基に考案したもので、自ら「スポーツの華」と称したと言われている。オリンピックの正式競技となったのはストックホルム1912大会から。東京2020大会ではオリンピック史上初めて、5種目が1会場で行われるペンタスロンスタジアム方式で開催される。



### ボート

水上の直線コースでオールを使ってボートを漕ぎ、順位を競う競技。カヌーとは逆で、進行方向に背中を向けて漕ぐ。ボートに足を固定し、レール上に設置されたシートが前後に動き、主に脚力を使って進む。オリンピックでは2000mで行われる。種目は大きく分けて、オールを右手と左手に1本ずつ持って漕ぐスカルと、オールを1人1本ずつ持って漕ぐスウィープの2種類。さらに漕ぎ手の人数でも分けられる。東京2020大会からは男女の種目数が同じ7種目ずつになり、ダブルスカル(漕ぎ手が2人)には体重制限の設けられた「軽量級」がある。



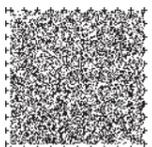
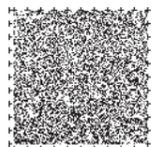
### 射撃

射撃は固定された標的を撃つ「ライフル射撃」と、空中に放出された動く標的を撃ち壊していく「クレー射撃」がある。ライフル射撃は標的までの距離、使う銃の種類などにより種目が分かれており、ピストルを使う種目もある。クレー射撃には、遠くにクレーが飛び去る「トラップ」と、左右の装置からクレーが放出される「スキート」がある。オリンピックでは第1回アテネ1896大会からの正式競技(セントルイス1904大会、アムステルダム1928大会を除く)。



### スケートボード

4つの車輪がついた板に乗り、トリック(ジャンプ、空中動作、回転などの技)を行い、その難易度や高さ、スピード、コンビネーションなどを評価する採点競技。東京2020大会で新たに採用される。オリンピックで行われる種目は、階段や手摺、坂道など街中を模したコースで技を競う「ストリート」と、すり鉢のような形状のポウルが複雑に組み合わさったコースで技を競う「パーク」の2つで、それぞれ男女別に行われる。



# Ⅲ. 大会概要



## オリンピック33競技



### スポーツクライミング

スポーツクライミングは、高くそり立つクライミングウォールに自身の体のみで挑む競技。初採用となる東京2020大会では、高さ15mの壁を2人の選手が同時に登り速さを競う「スピード」、高さ4m程度の壁を制限時間内にいくつ登れるかを競う「ボルダリング」、高さ15m以上の壁を制限時間内にどの地点まで登れるかを競う「リード」の3つが行われる。各選手が3種目を行い、それぞれの種目の順位を掛け合わせて総合順位が決まる。



### サーフィン

サーフィンは古代ポリネシア人によって始められ、ハワイで育った海のスポーツ。東京2020大会で新たに採用される。サーフボードのサイズによって長さ9フィート以上のロングボードと長さ6フィート前後のショートボードに大きく分けられるが、東京2020大会ではショートボードのみが行われる。定められた時間内に10本前後のライディングを行い、高い2本の合計点によって得点が決まる。男女20人ずつの選手で競われる。



### テニス

オリンピックのテニス競技には、男子、女子それぞれにシングルス(1対1)と、ダブルス(2対2)があり、さらにロンドン2012大会からは男女ペアで行うミックスダブルスも加わっている。負けたら敗退となる「トーナメント方式」で行われ、準決勝敗退者には3位決定戦がある。第1回のアテネ1896大会から正式競技だったが、プロ化が進んだためオリンピックから長い間外されていた。ソウル1988大会から復活。



### トライアスロン

トライアスロンは、スイム(水泳)・バイク(自転車ロードレース)・ラン(長距離走)の3種目を1人の選手が連続して行う耐久競技。オリンピックでは、スイム1.5km、バイク40km、ラン10kmの合計51.5kmで着順を争う。シドニー2000大会から正式競技となり、男女ともに実施されている。東京2020大会では、新種目として男女による混合リレーが行われる。



### 卓球

卓球の起源は19世紀終わりのイギリス。雨天時に食堂のテーブルをコートに見立ててテニスの真似ごとをしたのが始まりと言われ、「テーブルテニス」の呼び名がついた。北京2008大会より男女シングルス・男女団体の4種目が実施され、東京2020大会では、混合ダブルスが新種目となり、5種目が実施される。シングルの試合形式は1ゲーム11ポイントの7ゲームズマッチで、4ゲーム先取した選手が勝利。団体ではシングルスとダブルスを組み合わせた5試合で3試合を先取したチームが勝者となる。



### テコンドー

テコンドーは、古くから朝鮮半島に伝わる武術のテッキョンと日本の松濤館空手を母体とする格闘技。韓国では国技となっている。オリンピックではソウル1988大会とバルセロナ1992大会で公開競技として実施され、シドニー2000大会から正式競技になった。キョルギ(組手)とプムセ(型)があるが、オリンピックではキョルギが行われる。男女ともに4階級で、トーナメント方式で争われる。1ラウンド2分間を3ラウンド行い(インターバル1分)、基本的に得点差で勝敗が決まる。



### バレーボール

ネットによって分けられた18m×9mのコートで、2つのチームがネット越しにボールを打ち合う競技。個人の高い技能はもちろん、戦術を理解し、共有する固いチームワークや協調性が求められる。バレーボールから派生したビーチバレーボールは、砂の上に設けられたコートで、2人1組のチーム同士が対戦する。バレーボールは東京1964大会から、ビーチバレーボールはアトランタ1996大会から、男女ともオリンピックの正式種目となった。



### ウエイトリフティング

ウエイトリフティングは第1回近代オリンピック(アテネ1896大会)で採用され、アントワープ1920大会から体重階級制の競技となり、東京2020大会では男女各7階級が実施される。両手でバーベルを一気に頭上まで持ち上げて立ち上がる「スナッチ」、いったん鎖骨の位置までバーベルを持ち上げ、次に脚力を用いてそれを頭上に差し上げる「クリーン&ジャーク」をそれぞれ3回ずつ行い、それぞれの最高重量の合計を競う。

# Ⅲ. 大会概要



## オリンピック33競技



### レスリング

レスリングは古代オリンピックでも行われ、人類最古の格闘技と言われている。腰から下を攻撃と防御に使うことが禁止されているグレコローマンスタイルと、全身を攻撃と防御に使えるフリースタイルがある。長い間男子のみの競技だったが、アテネ2004大会から女子も加わった（フリースタイルのみ）。体重による階級別で試合が行われるため、体格の差に関係なく活躍できる。男子グレコローマン、男子フリースタイル、女子フリースタイルとも6階級（6種目）で行われる。

#### column

#### 東京2020大会で追加された競技（オリンピック）

—野球・ソフトボールなど5競技18種目を採用—

東京2020大会から、開催都市の組織委員会がIOCに追加種目を提案することができるようになりました。これを受け、東京2020組織委員会は、「若者へのアピール」、「国民機運の向上」、「公正で開かれた選考プロセス」の3つの主要原則に基づいて提案を行い、右記の5競技18種目が追加競技として採用されました。これにより、既存の10,500人枠の選手に加えて、新たに474人の選手が参加し、熱戦を繰り広げることになります。

| 競技         | 提案種目                  | 種目数 | 選手数 |
|------------|-----------------------|-----|-----|
| 野球・ソフトボール  | 野球(男子)                | 1   | 144 |
|            | ソフトボール(女子)            | 1   | 90  |
| 空手         | 形(男女)                 | 2   | 20  |
|            | 組手3階級(男女)             | 6   | 60  |
| スケートボード    | ストリート(男女)             | 2   | 40  |
|            | パーク(男女)               | 2   | 40  |
| スポーツクライミング | ボルダリング・リード・スピード複合(男女) | 2   | 40  |
| サーフィン      | ショートボード(男女)           | 2   | 40  |
| 合計5競技      | 合計                    | 18  | 474 |



## パラリンピック22競技



### アーチェリー

障がい者を対象にしたアーチェリーが行われるようになったのは1940年代からで、1948年にイギリスの傷病兵のリハビリを行うストーク・マンデビル病院で車いすのアーチェリー大会が開催されている。この大会はのちに「パラリンピックの原点」と言われるようになった。パラリンピックにおけるアーチェリーは、第1回ローマ1960大会で正式競技として採用され、以来、継続して実施されている。



### 陸上競技

パラリンピックの陸上競技は、第1回ローマ1960大会から正式競技として実施されている。夏季大会の競技の中で参加人数は最も多い。オリンピックとは異なる大きな特徴は、クラス分け制度で、対象とする障がいが多岐にわたるため、極力条件を揃え、公平な競争が行えるようにしている。種別にはトラック競技の他、跳躍と投てきのフィールド競技、オリンピックと同じ42.195kmを走るマラソンがある。



### バドミントン

バドミントンは東京2020大会からパラリンピックの正式競技となる。身体に障がいのある人を対象とするが、さまざまな障がいの選手ができるだけ公平に競えるよう、障がいの内容や程度で6つのクラス（車いす2クラス、立位4クラス）に分かれて競う。ルールはオリンピックのバドミントンとほぼ同じだが、クラスによって一部アレンジされている。例えば、コートの大さは車いす2クラスと立位の1クラスのシングルスのみ通常の半面を使う。ネットの高さは全クラス共通だ。



### ボッチャ

イタリア語で「ボール」を意味するボッチャは、脳原性疾患による四肢麻痺など比較的重い障がいのある人のために考案されたパラリンピック特有の球技。最初に目標となるジャックと呼ばれる白いボールを投げ、続いて赤と青の各6個のボールを投げたり、転がしたりして、いかにジャックに多くのボールを近づけられるかを競う。「地上のカーリング」とも呼ばれる。

## Ⅲ. 大会概要



### パラリンピック22競技



#### カヌー

リオ2016大会からパラリンピック競技となった。200mの流れない直線コースを1人乗りの艇で一斉にスタートして着順を競う。東京2020大会では、従来のカヤックにヴァーが加わり、2種目が行われる。カヤックとヴァーでは艇とパドルの形状が異なり、ヴァーではアウトリガーのついた艇とカナディアンシングルブレードパドルを使用する。障がいの程度により、カヤックは男女3クラス、ヴァーは男子2クラス、女子1クラスに分けられ、レースに挑む。



#### 自転車競技

自転車競技がパラリンピックの正式競技に加わったのは、ロード（一般道）競技がニューヨーク・エイルズベリー1984大会から、トラック競技がアトランタ1996大会から。対象は身体障がいと視覚障がい。トラック競技とロード競技で、それぞれ複数種目が行われる。オリンピックとほぼ同じルールだが、より公平な競技を行うため、障がいに応じて4クラスに分かれ、さらに障がいの程度によって細分され、男女別に競う。



#### ゴールボール

視覚障がい者を対象にしたチーム球技。全盲から弱視の選手まで出場できるが、公平に競技を行うため、全員アイシェード（目隠し）を着用する。バレーボールコート大の（18m×9m）コートを使い、1チーム3人の2チームで対戦。鈴の入ったボールを転がし、相手のゴールに入れて得点を競う。選手が音を頼りにプレーするので、観客には静かに見守ることが求められる。



#### 柔道

視覚障がい者だけで行われるパラリンピックの柔道。陸上競技や水泳のような障がいの程度に応じたクラス分けはなく、オリンピックと同様に男女別・体重別の階級制で行われる。アイマスクなどは使わず、全盲や弱視など見え方の異なる選手同士でも、そのまま対戦する。ルールはオリンピックとほぼ同じだが、大きく違う点は組み合った状態から「はじめ」となるところ。組み手争いの時間がないため、試合開始から技の掛け合いになり、早々に「一本」で勝負が決する場合もある。



#### 馬術

パラリンピックの馬術は、アトランタ1996大会から正式競技として採用されている。対象は肢体不自由の選手と視覚障がいの選手。男女の別はなく、障がいの内容や程度に応じてグレードIからVまで5つのクラスに分かれて競う。パラリンピックでは技の正確さや演技の美しさを競う馬場馬術（ドレッシング）種目のみが行われる。



#### 5人制サッカー

5人制サッカーは別名「ブラインドサッカー」としても知られる。視覚障がいのある選手を対象とするサッカーで、1チームは4人のフィールドプレイヤーとゴールキーパーで構成される。ゴールキーパーは晴眼（視覚障がいのない選手）、または弱視の選手が務めるが、フィールドプレイヤーは全盲から光覚（光を感じられる）までの選手でなければならず、アイマスク（目隠し）着用の義務がある。



#### パワーリフティング

パワーリフティングは重りのついたバーベルを押し上げ、その重量を競う競技の総称だ。パラリンピックでは、ベンチに仰向けに横たわった状態からバーベルを押し上げるベンチプレス競技が行われている。下肢に障がいのある選手を対象としているため、腕や肩、胸など上半身の筋力だけが武器となる。メダルを争うような選手とかなれば、自身の体重の約3倍の重量を持ち上げる。



#### ボート

競技用のボートに乗り、ブイで仕切られた6つの直線コース（距離はオリンピックと同じ2000m）で順位を競う。シングルスカル（1人乗り）、ダブルスカル（2人乗り）、舵手つきフォア（5人乗り4人漕ぎ）の3種目。シングルスカルとダブルスカルは下肢に障がいのある選手が対象なので、一般のボートとは異なりシートが固定されており、基本的に腕など上半身のみで漕ぐ。

## Ⅲ. 大会概要



### パラリンピック22競技



#### 射撃

射撃は、肢体不自由の選手を対象に行われ、ライフルやピストルで遠方に固定された円状の的を撃ち、その正確性を競う。撃ち抜いた位置によって点数が与えられ、制限時間内に規定の弾数の射撃を連続して行い、合計得点によって勝敗が決まる。クラス分けが、選手の障がいの程度ではなく、上肢（手や腕）で銃を保持できるかどうかが基準となるのがパラリンピックの射撃の特徴。



#### シッティング バレーボール

シッティングバレーボールは、障がいのある選手を対象とし、お尻（臀部）を床につけた状態で競技するバレーボール。1チーム6人でネットをはさんで対戦するが、ネットとコートはオリンピックのバレーボールよりも低くて狭い。最も重要なルールは、プレー中に臀部が床から離れると、「リフティング」というファウルになる点。相手のサーブを直接ブロックやアタックなどで返球できる点もオリンピックとは異なる。



#### テコンドー

テコンドーはバドミントンとともに、東京2020大会からパラリンピックの正式競技となる2競技のうちのひとつ。蹴り技を特徴とする格闘技で、基本的なルールはオリンピックとほぼ同じだが、パラリンピックでは上肢に切断や機能障がいのある選手が対象となる。障がいの程度により、重いほうから順にK41からK44まで4つのスポーツクラスに分けられるが、東京2020大会では、K43とK44のふたつが統合されてひとつのスポーツクラスで行われ、男女別に体重階級制（各3階級）で競う。



#### トライアスロン

1人で3つの種目（スイム、バイク、ラン）を連続して行い、その合計タイムを競うトライアスロン。パラリンピックでは、リオ2016大会から正式競技となっている。レースの距離はオリンピックのちょうど半分となる「スプリントディスタンス」。障がいの内容や程度により6クラスに分かれ、クラスごとに競技用具が一部異なる。



#### 水泳

水泳は第1回ローマ1960大会から行われている。できるだけ条件を揃え公平に行えるよう、障がいの種類や程度、運動機能などによりクラス分けされ、それぞれのクラスごとに競う。選手はそれぞれの障がいに応じて全身を駆使し、独自のスタイルで泳ぐ。その個性豊かなフォームは、「残されたものを最大限に活かす」というパラリンピックの精神を強く体現する。ルールはオリンピックとほぼ同じだが、選手の障がいに合わせて、スタート方法など一部が追加されている。



#### 卓球

卓球は、第1回ローマ1960大会から継続して実施されている競技のひとつ。オリンピックで卓球が正式競技になったのはソウル1988大会なので、パラリンピックの卓球が先に始まっている。対象とする障がいは幅広く、まず肢体不自由と知的障がいの2つに大別され、肢体不自由クラスには車いす（立って競技する）立位がある。試合はそれぞれの障がいの程度に応じて、さらに11クラスに分かれて行われる。



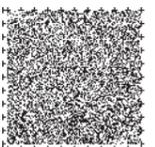
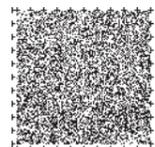
#### 車いす バスケットボール

車いすバスケットボールは、脊髄損傷や切断等下肢に主な障がいのある選手を対象にした競技。回転性や敏捷性の高い、専用の車いすに乗って行うバスケットボール。ボールやコートのサイズ、ゴールの高さや出場人数など基本的なルールはオリンピックとほぼ同じ。大きな特徴は「クラス分け」。選手は障がいの程度や身体能力によって、重いほうから順に1.0点から4.5点まで0.5点刻みで8クラスに分けられ、コート上の5選手の合計点を14.0点以内で構成するというルールだ。幅広い選手起用が必要で、緻密な戦略に基づいた役割分担によるチームワークも見どころとなる。



#### 車いす フェンシング

脊髄損傷や下肢切断による、下肢に障がいのある選手を対象とする車いすフェンシングは、「ピスト」と呼ばれる装置に固定した競技用車いすに座り、上半身だけで競技する。相手を剣で突くとポイントになるなど、ルールはオリンピックのフェンシングとほぼ同じだが、フットワークが使えず相手との距離が近く一定なので、剣さばきのテクニックやスピードが重要なポイントになる。胴体だけを突く「フルーレ」、上半身の突きを行う「エペ」、上半身の突きに斬る動作が加わった「サーブル」の3種目がある。



# Ⅲ. 大会概要



## パラリンピック22競技



### 車いすラグビー

車いすラグビーは、車いす同士のタックルが認められた唯一の球技である。バスケットボールと同じ広さのコートを使い、競技用の車いすに乗った選手が4対4で対戦する。障がいの程度の重い選手から順に0.5点から3.5点まで0.5点刻みで「持ち点」が与えられ、コート上の合計が8点以内でチームが編成される。選手の起用、役割分担、フォーメーション等、精密に戦略を立てることで、勝利を手繰り寄せる。



### 車いすテニス

車いすに乗ってプレーする車いすテニスは、2バウンドまでの返球が認められている以外はテニスと同じルールで行われる。コートの広さ、ネットの高さ、用具なども同じだ。なお、2バウンド目はコート内でも外でもよい。試合カテゴリーは男女シングルス、ダブルスの他、下肢に加え上肢にも障がいがある選手を対象とした、男女混合の「クアード」があり、それぞれシングルスとダブルスがある。

#### column

#### 東京2020大会から追加の新競技と参加国・選手数の推移(パラリンピック)

—バドミントンとテコンドーを新たに採用—

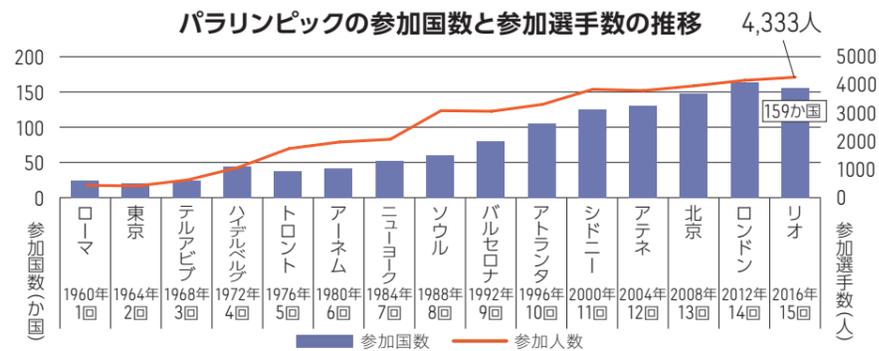
新競技の新採用などにより参加選手数が増加、パラスポーツが広がりを見せています。

##### バドミントン

座ってプレーする「車いす」と、上肢障がい、下肢障がい、低身長「立位」があり、障がいの程度によりクラス分けされます。車いすのコートは半面なので、全面コートより攻撃のテンポが速くなるのが特徴です。そのためスタミナだけでなく、技術の習熟度とメンタルの強さが勝利のカギを握ります。

##### テコンドー

パラリンピック種目では、主に上肢障がいの選手が参加できるキョルギ(組手)が採用されました。腕の切断部分などによりクラス分けされ、男女それぞれ体重別に3階級があります。一般のテコンドーとは異なり、頭部への攻撃は禁止されており、蹴りのみで攻撃します。



# 5. 会場

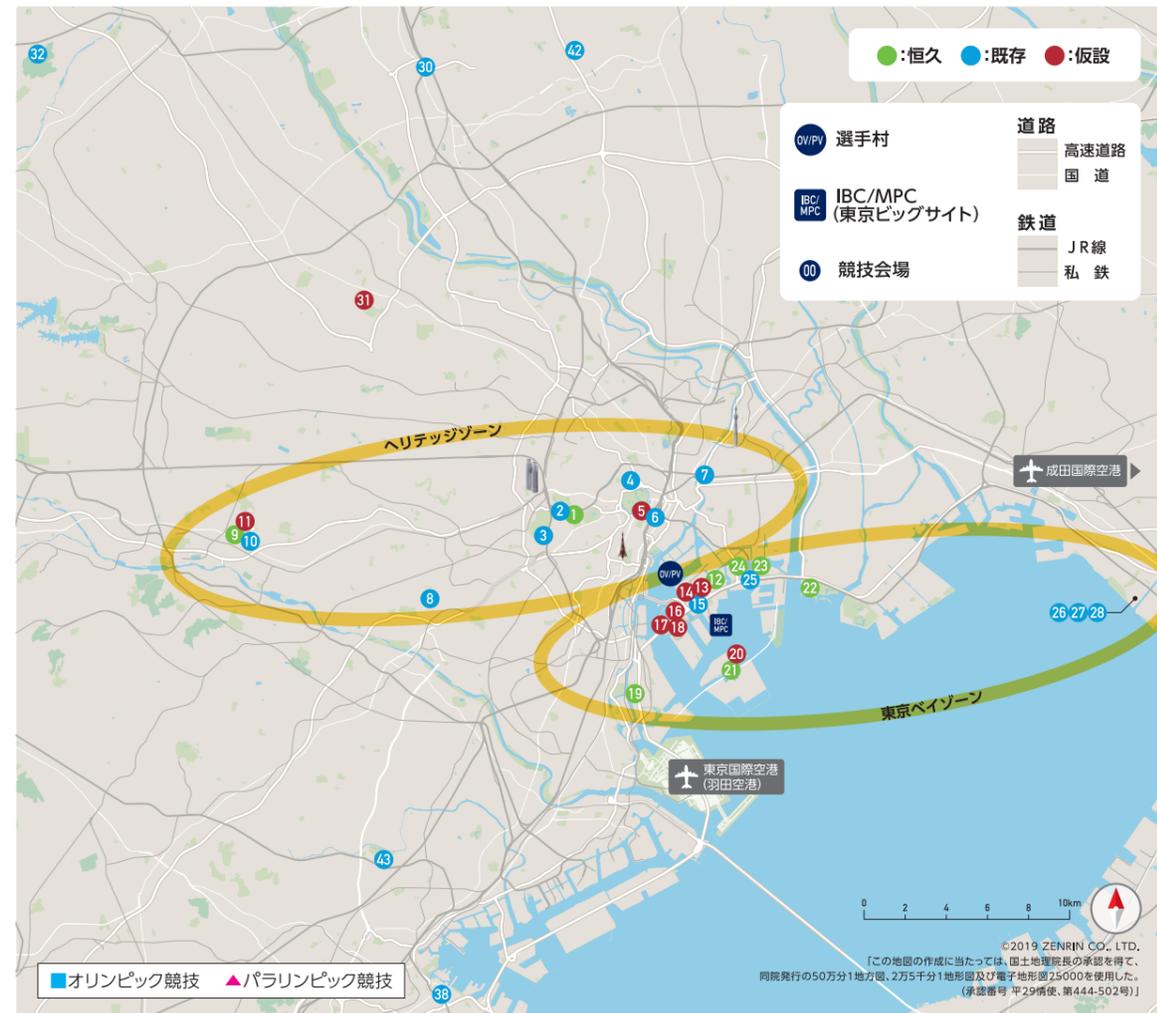
東京2020大会は、新規施設の他、東京1964大会のレガシー施設を含む多くの既存施設なども活用して、日本全国の会場で開催します。



大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成/JSC提供  
注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。

# Ⅲ. 大会概要

## オリンピック・パラリンピック競技会場配置図 (オリンピック競技会場:2019年2月現在 / パラリンピック競技会場:2019年4月現在)



### ヘリテッジゾーン

- 1 **オリンピックスタジアム**  
▲開会式・閉会式、陸上競技  
■サッカー
- 2 **東京体育館**  
▲卓球
- 3 **国立代々木競技場**  
■ハンドボール  
▲バドミントン、車いすラグビー
- 4 **日本武道館**  
▲柔道  
■空手
- 5 **皇居外苑**  
■陸上競技(競歩)
- 6 **東京国際フォーラム**  
■ウエイトリフティング  
▲パワーリフティング
- 7 **国技館**  
■ボクシング
- 8 **馬事公苑**  
■馬術(馬場馬術、総合馬術、障害馬術)  
▲馬術
- 9 **武蔵野の森総合スポーツプラザ**  
■バドミントン、近代五種  
▲車いすバスケットボール
- 10 **東京スタジアム**  
■サッカー、ラグビー、近代五種
- 11 **武蔵野の森公園**  
■自転車競技(ロード)

### 東京ベイゾーン

- 12 **有明アリーナ**  
■バレーボール(バレーボール)  
▲車いすバスケットボール
- 13 **有明体操競技場**  
■体操  
▲ポッチャ
- 14 **有明アーバンスポーツパーク**  
■自転車競技(BMXフリースタイル、BMXレーシング)、スケートボード
- 15 **有明テニスの森**  
■テニス  
▲車いすテニス
- 16 **お台場海浜公園**  
▲トライアスロン  
■水泳(マラソンスイミング)
- 17 **潮風公園**  
■バレーボール(ビーチバレーボール)
- 18 **青海アーバンスポーツパーク**  
■3×3 バスケットボール、スポーツクライミング  
▲5人制サッカー
- 19 **大井ホッケー競技場**  
■ホッケー
- 20 **海の森クロスカントリーコース**  
■馬術(総合馬術(クロスカントリー))
- 21 **海の森水上競技場**  
■ボート  
■カヌー(スラローム) ▲カヌー
- 22 **カヌー・スラロームセンター**  
■カヌー(スラローム)
- 23 **夢の島公園アーチェリー場**  
■アーチェリー
- 24 **東京アクアティクスセンター**  
■水泳(競泳、飛込、アーティスティックスイミング)  
▲水泳
- 25 **東京辰巳国際水泳場**  
■水泳(水球)
- 26 **幕張メッセ Aホール**  
■テコンドー、レスリング  
▲シットイングバレーボール
- 27 **幕張メッセ Bホール**  
■フェンシング  
▲テコンドー、車いすフェンシング
- 28 **幕張メッセ Cホール**  
▲ゴールボール

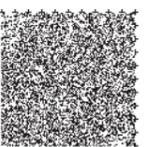
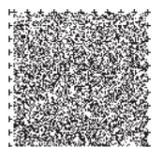
### その他

- 29 **さいたまスーパーアリーナ**  
■バスケットボール(バスケットボール)
- 30 **陸上自衛隊朝霞訓練場**  
▲射撃
- 31 **埼玉スタジアム2002**  
■サッカー
- 32 **霞ヶ関カンツリー倶楽部**  
■ゴルフ
- 33 **横浜国際総合競技場**  
■サッカー
- 34 **横浜スタジアム**  
■野球・ソフトボール

## オールジャパンで支える東京2020大会



- 29 **釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ**  
■サーフィン
- 33 **江の島ヨットハーバー**  
■セーリング
- 34 **伊豆ペドロローム**  
■▲自転車競技(トラック)
- 35 **伊豆MTBコース**  
■自転車競技(マウンテンバイク)
- 36 **富士スピードウェイ**  
■▲自転車競技(ロード)
- 37 **福島あづま球場**  
■野球・ソフトボール
- 39 **札幌ドーム**  
■サッカー
- 40 **宮城スタジアム**  
■サッカー
- 41 **茨城カシマスタジアム**  
■サッカー



# Ⅲ. 大会概要

## オリンピック42会場、パラリンピック21会場、その他関連施設

### 競技会場

■オリンピック競技 ▲パラリンピック競技



- ① **オリンピックスタジアム**  
 ■開会式・閉会式／陸上競技／サッカー  
 ▲開会式・閉会式／陸上競技

東京1964大会のオリンピックスタジアムであった国立競技場が、2020年までに新しい競技場に生まれ変わります。東京2020大会では、開・閉会式のほか、陸上競技やサッカーが行われます。大会後は各種スポーツ・文化関連イベントに使用される予定です。

大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成/JSC提供  
 注)パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約10年の姿を想定しております。



- ② **東京体育館**  
 ■卓球  
 ▲卓球

東京1964大会時に、メインアリーナで体操競技、屋内プールで水球が開催されました。1964年のオリンピックレガシーを有する施設の一つです。



- ⑨ **武蔵野の森総合スポーツプラザ**  
 ■バドミントン、近代五種  
 (フェンシングランキングラウンド)  
 ▲車いすバスケットボール

東京スタジアムに隣接する場所に新しく整備された施設です。10,000人以上収容可能なメインアリーナなどを有する総合スポーツかつ多目的施設です。



- ⑩ **東京スタジアム**  
 ■サッカー、ラグビー、近代五種  
 (水泳、フェンシングボウナスラウンド、馬術、レーザーラン)

サッカーをはじめ、多彩なイベントに利用されている多目的スタジアムです。



- ⑪ **武蔵野の森公園**  
 ■自転車競技  
 (ロード(ロードレース・スタート))

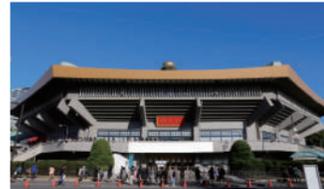
武蔵野の森公園は、大会時には自転車競技(ロードレース)のスタート地点として仮設施設が整備されます。公園の周囲には武蔵野の森が広がり森の緑を背景として美しい景観が楽しめます。



写真提供:独立行政法人日本スポーツ振興センター

- ③ **国立代々木競技場**  
 ■ハンドボール  
 ▲バドミントン、車いすラグビー

東京1964大会時に、水泳とバスケットボールの競技会場として使用するため、建設された施設です。高張力による吊り屋根に特徴がある建物で、現在でもオリンピックレガシーとして世界的に高い評価を受けています。



- ④ **日本武道館**  
 ■柔道、空手  
 ▲柔道

柔道をはじめとする日本の武道の聖地です。東京1964大会では、初めて正式競技に採用された柔道の競技会場となり、連日熱戦が展開されました。



- ⑤ **皇居外苑**  
 ■陸上競技(競歩)

皇居外苑は、大会時には陸上競技(競歩)の競技会場として、仮設施設が整備されます。黒松の点在する大芝生広場と江戸城のたたずまいを残す濠、城門などの歴史的建造物とが調和し、日本を代表する公園として親しまれています。



2019年1月時点の大会後イメージ図

- ⑫ **有明アリーナ**  
 ■バレーボール(バレーボール)  
 ▲車いすバスケットボール

有明北地区に新しく整備されるアリーナです。大会後は、15,000席の規模を活かし、東京の新たなスポーツ・文化発信拠点としていきます。



2017年11月時点のイメージ図

- ⑬ **有明体操競技場**  
 ■体操  
 ▲ボッチャ

有明北地区に仮設で整備される会場です。大会時には、約12,000人の客席数を有する競技場が建設される予定です。



- ⑭ **有明アーバンスポーツパーク**  
 ■自転車競技  
 (BMXフリースタイル、BMXレーシング)、  
 スケートボード

選手村やIBC/MPC(東京ビッグサイト)からも近いウォーターフロントエリアの有明北地区に計画されています。自転車競技のBMXレーシング、BMXフリースタイルの他、スケートボードも実施されます。



- ⑥ **東京国際フォーラム**  
 ■ウエイトリフティング  
 ▲パワーリフティング

首都東京の中心・丸の内位置するコンベンション&アートセンター。大小8つのホール、34の会議室などからなる総合的な文化情報発信拠点です。



- ⑦ **国技館**  
 ■ボクシング

日本の国技である相撲の聖地です。館内がすり鉢状になっており、観客は四方から中央で行われる競技を観戦することができます。



- ⑧ **馬事公苑**  
 ■馬術(馬場馬術、総合馬術、障害馬術)  
 ▲馬術

東京1964大会時に馬術が行われた場所です。1964年のオリンピックレガシーを有する施設の一つです。現在は、馬事普及拠点になっています。



- ⑮ **有明テニスの森**  
 ■テニス  
 ▲車いすテニス

このエリアは、日本のテニスの聖地とされています。緑に囲まれた敷地に屋外48面のテニスコートと「有明コロシウム」を備えています。



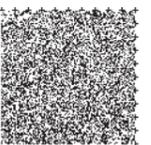
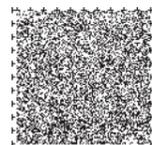
- ⑯ **お台場海浜公園**  
 ■水泳(マラソンスイミング)、  
 トライアスロン  
 ▲トライアスロン

海や緑の自然と、レインボーブリッジなどの未来的景観が融合した観光スポットである台場地区にある公園です。大会時には、仮設で競技会場が整備されます。



- ⑰ **潮風公園**  
 ■バレーボール  
 (ビーチバレーボール)

ウォーターフロントの象徴であるレインボーブリッジを背景に、東京湾の美しい景色を眺めることができる公園です。大会時には仮設で競技会場が整備されます。



# Ⅲ. 大会概要

■オリンピック競技 ▲パラリンピック競技



**⑱ 青海アーバンスポーツパーク**  
 ■3×3 バスケットボール、  
 スポーツライミング  
 ▲5人制サッカー  
 選手村からも近い青海エリアの敷地に、仮設で整備される会場です。東京湾が見える場所に位置し、バスケットボールの3×3やスポーツライミングが実施されます。



2019年1月時点の大会時イメージ図

**⑲ 大井ホッケー競技場**  
 ■ホッケー  
 品川区と大田区にまたがる大井ふ頭中央海浜公園内に大会後も利用できる施設として整備される会場です。2面のホッケーピッチが試合会場として利用されます。



**⑳ 海の森クロスカントリーコース**  
 ■馬術  
 (総合馬術(クロスカントリー))  
 東京湾のすばらしい眺めとドラマチックな都市景観を一度に楽しむことができる埋立地です。大会時には、馬術のクロスカントリーコースが仮設で整備されます。



2019年1月時点の大会時イメージ図

**㉑ 海の森水上競技場**  
 ■カヌー(スプリント)、ボート  
 ▲カヌー、ボート  
 都心に近い東京の臨海部に新しく整備される施設です。大会後は、アジアの水上競技の中心となる国際水準の競技場としていきます。



2016年5月時点のイメージ図

**㉒ カヌー・スラロームセンター**  
 ■カヌー(スラローム)  
 葛西臨海公園の隣接地に新しく整備される国内初の人工コースの施設です。大会後は、さまざまな水上スポーツ・レジャーを楽しむ施設としていきます。



2019年1月時点の大会時イメージ図

**㉓ 夢の島公園アーチェリー場**  
 ■アーチェリー  
 ▲アーチェリー  
 夢の島公園内にアーチェリー会場を整備します。大会後は、アーチェリーを中心に、多様な活用の機会を提供する施設としていきます。



2019年1月時点の大会時イメージ図

**㉔ 東京アクアティクスセンター**  
 ■水泳(競泳、飛込、  
 アーティスティックスイミング)  
 ▲水泳  
 辰巳の森海浜公園に新しく整備される施設です。大会後は、日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場としていきます。



**㉕ 東京辰巳国際水泳場**  
 ■水泳(水球)  
 東京都における水泳の中心的・象徴的施設としての役割を担う広域的な専門施設として設置されました。



**㉖㉗㉘ 幕張メッセ**  
 ■テコンドー、レスリング、  
 フェンシング  
 ▲シットイングバレーボール、  
 テコンドー、車いすフェンシング、  
 ゴールボール  
 210,000㎡の敷地に「国際展示場」「国際会議場」「幕張イベントホール」の3施設で構成される複合コンベンション施設です。千葉県千葉市にあります。



**㉙ 釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ**  
 ■サーフィン  
 「世界レベル」とも言われる良質な波を求めて多くのサーファーが訪れる海岸です。千葉県長生郡一宮町にあり、東京2020大会の追加競技として行われます。



**㉚ さいたまスーパーアリーナ**  
 ■バスケットボール  
 (バスケットボール)  
 スポーツ、音楽、展示会などさまざまな用途に対応した国内最大級の多目的ホールです。埼玉県さいたま市にあります。



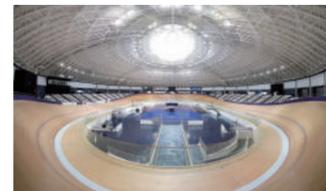
**㉛ 陸上自衛隊朝霞訓練場**  
 ■射撃  
 ▲射撃  
 東京1964大会時にも、この訓練場でライフル射撃競技が行われました。東京2020大会時には、オリンピック基準に適合した射撃の仮設施設が整備されます。



**㉜ 霞ヶ関カントリー倶楽部**  
 ■ゴルフ  
 緑豊かな武蔵野丘陵に広がるゴルフ場です。ゴルフ伝承の一端を担う設計者により設計された、80年以上の歴史を誇る施設です。埼玉県川越市にあります。



**㉝ 江の島ヨットハーバー**  
 ■セーリング  
 東京1964大会時に使用するため、整備された日本初の競技用ハーバーです。1964年のオリンピックレガシーを有する施設のひとつです。神奈川県藤沢市にあります。



**㉞ 伊豆ベロドローム**  
 ■自転車競技(トラック)  
 ▲自転車競技(トラック)  
 国際自転車競技連合(UCI)規格の周長250mの木製走路を有する屋内型自転車トラック競技施設です。静岡県伊豆市にあります。



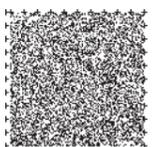
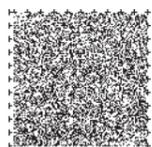
**㉟ 伊豆MTBコース**  
 ■自転車競技(マウンテンバイク)  
 全長2,500m、高低差が85mあるオフロードコースです。静岡県伊豆市にあります。



**㊱ 富士スピードウェイ**  
 ■自転車競技(ロード(ロードレース・  
 ゴール、個人タイムトライアル))  
 ▲自転車競技(ロード)スタート・ゴール  
 首都圏に最も近い国際サーキットです。場内には、最新の国際レーシングコースに加え、レース関係者や報道関係者などが利用する施設についても最新の設備が導入されています。



**㊲ 福島あづま球場**  
 ■野球・ソフトボール  
 「スポーツを楽しむ」「自然と憩い」「家族で楽しむ」「歴史散策」の4つのエリアを有する総合運動公園内にある野球場です。プロ野球公式戦、高校野球、社会人野球等の幅広い試合が開催されています。福島県福島市にあります。



## Ⅲ. 大会概要

■オリンピック競技 ▲パラリンピック競技



⑳横浜スタジアム  
■野球・ソフトボール

横浜公園内にある日本初の多目的スタジアムです。日本のプロ野球チームの本拠地にもなっています。東京2020大会追加競技が行われます。神奈川県横浜市にあります。



㉑札幌ドーム  
■サッカー

サッカーと野球のプロチーム2つの本拠地にもなっている施設です。日本最北にある全天候型ドームスタジアムです。北海道札幌市にあります。



㉒宮城スタジアム  
■サッカー

スタジアムの観客席を覆う大屋根は、仙台藩主「伊達政宗公」の兜飾りの三日月をデザインしています。陸上競技やサッカー等ができる多目的競技場です。宮城県宮城郡利府町にあります。



㉓茨城カシマスタジアム  
■サッカー

本格的なサッカー専用スタジアムで、常緑の天然芝フィールドとスタンドのどこからでも観戦しやすい観客席を有しています。プロサッカーチームの本拠地にもなっています。茨城県鹿嶋市にあります。



㉔埼玉スタジアム2002  
■サッカー

アジア最大級・日本で最大のサッカー専用スタジアムです。埼玉県さいたま市にあります。



㉕横浜国際総合競技場  
■サッカー

日本最大規模の72,327席の観客収容能力を誇る屋外多目的競技場です。神奈川県横浜市にあります。

### その他関連施設



2020年の臨海五丁目地区(選手村周辺)のイメージ  
※2020年時点での恒久施設のみ描画

### 選手村

東京都中央区晴海に整備される選手村の宿泊棟については、東京都が施行する市街地再開発事業において民間事業者が整備する住宅棟を、大会期間中に一時使用する計画となっています。大会後、住宅棟は改修し、新たに建築する高層棟とともに分譲等を行う予定となっています。



### IBC/MPC(東京ビッグサイト)

#### IBC(International Broadcasting Centre) 「国際放送センター」

オリンピック放送機構(OBS)と放送権をもつ世界の放送局(放送権者)がここに拠点局を設置し、全競技会場の生中継映像が、ここから世界中に発信されます。

#### MPC(Main Press Centre)「メインプレスセンター」

大会全情報の受信基地であり、プレス業務の中心地です。各種記者会見はここで行われ、メディアの臨時オフィス等も設けられます。IBCとMPCが置かれる東京ビッグサイトは、約265,700㎡の敷地に、展示ホール、国際会議場、レセプションホールなどを備える日本最大のコンベンション施設です。

## 6. 持続可能性

### 持続可能性とは

持続可能性とは、「将来世代のニーズに応える能力を損ねることなく、現在の世代のニーズを満たすこと」です。持続可能性は、環境・社会・経済のさまざまな側面との関わりがあります。

- 【環境】 気候変動、オゾン層破壊、資源採取、大気汚染・水質汚濁、生物多様性など
- 【社会】 人権侵害、アクセシビリティ、強制労働、腐敗(贈収賄)、教育など
- 【経済】 貧困、先進国と途上国の格差、地域経済、大量生産・大量消費・大量廃棄など

### オリンピック・パラリンピックと持続可能性

オリンピック・パラリンピックは、世界最大規模のスポーツイベントであり、その影響は環境・社会・経済に、また開催国のみならず世界にまで広く及ぶことから、近年の大会では、大会の準備・運営において持続可能性に配慮した取り組みが行われています。

国連においては、2015年に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、「持続可能な開発目標(SDGs)\*」が設定されました。この2030アジェンダにおいて、スポーツは持続可能な開発における重要な役割を担うとされています。

東京2020大会も、地球および人類の将来を見据え、SDGsに貢献できるよう取り組みます。

#### ※持続可能な開発目標(SDGs)とは

「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」は、持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成される、すべての国・人々が取り組まなければならない2030年までの国際目標です。



### 東京2020大会の持続可能性コンセプト

私たちは、「Be better, together / より良い未来へ、ともに進もう。」を大会の持続可能性コンセプトとし、持続可能な社会の実現に向け、さまざまな方々と連携しながら、日本が直面する世界共通課題の解決のための仕組みや取り組みを国内外に示していきます。

このコンセプトのもと、「持続可能性に配慮した大会」をみんなで実現させていきましょう。

東京2020大会の持続可能性コンセプト

**Be better, together**

より良い未来へ、ともに進もう。

# Ⅲ. 大会概要

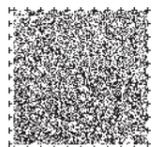
## 東京2020大会の持続可能性



基本的な考え方を示した「持続可能性に配慮した運営方針」と、目標や施策を示した「持続可能性に配慮した運営計画」を策定し、5つの主要テーマと目標に向けて取り組みを進めています。

## 5つのテーマと目標、具体的取り組み

- 気候変動**：(目標) Towards Zero Carbon (脱炭素社会の実現に向けて)  
 → 再生可能エネルギー電力の100%使用、燃料電池自動車等の活用 など
- 資源管理**：(目標) Zero Wasting (資源を一切ムダにしない)  
 → 調達物品の再使用・再生利用率99%、運営時廃棄物の再使用・再生利用率65% など
- 大気・水・緑・生物多様性等**：(目標) City within Nature/Nature within the City (自然共生都市の実現)  
 → 暑さ対策、雨水の循環利用、在来種の植栽 など
- 人権・労働、公正な事業慣行等**：  
 (目標) Celebrating Diversity ~Inspiring Inclusive Games for Everyone~ (多様性の祝祭 ~誰もが主役の開かれた大会~)  
 → ダイバーシティ&インクルージョンの推進、アクセシビリティの確保 など
- 参加・協働、情報発信(エンゲージメント)**：  
 (目標) United in Partnership & Equality~Inspiring Inclusive Games for Everyone~ (パートナーシップによる大会づくり ~誰もが主役の開かれた大会~)  
 → みんなのメダルプロジェクト・東京2020参画プログラム など



## 大会の持続可能性に向けた具体的な取り組み例

**持続可能な資源循環**

さまざまな資源が使用される東京2020大会は、資源をムダなく活用し、環境負荷をゼロにすることを目指しています。容器包装などの削減や、廃棄物の再使用・再生利用などに取り組み、森林の保全やCO<sub>2</sub>削減に貢献していきましょう。使い捨てプラスチックの使用を控え、使った場合には、正しく分別し、リサイクルしましょう。

**持続可能性に配慮した調達コードの策定**

調達コードとは、東京2020大会の準備のために調達する物品等の供給過程において持続可能性が確保されるよう、事業者を求める基準やその確認方法などを定めたものです。

たとえば、会場建設などに使う木材には、違法伐採などがないように適切に管理された森林からの木材を使うこととしています。

東京2020大会をきっかけに、持続可能性に配慮した製品やサービスを選択する動きが拡大することを期待しています。

**都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト**

東京2020大会の約5,000個のメダルを全国各地から集めた小型家電のリサイクル金属で作る国民参画型プロジェクトです。東京2020大会をきっかけに、資源の有効活用をより重視する、持続可能な社会の仕組みを作る取り組みです。

**みんなの想いが集まって**

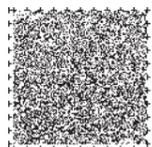
携帯電話やパソコン等  
小型家電を全国各地で回収

**東京2020メダリストへ**

小型家電から抽出した  
リサイクル金属でメダルを製作

**資源をより活かす社会に**

資源の有効活用をより重視する  
さらに持続可能な社会へ



## Ⅲ. 大会概要

### すぐ目の前にある持続可能性とは

～みなさんの活動が未来につながります～

持続可能性は「特別なこと」ではありません。活動の中でできることは何か、考えてみましょう。

#### 活動の中でできる取り組み例

- 食事の際は、なるべく食べ残しをしない
- 会場での分別ルールを守って、ごみと資源の分別を行う
- 水を使用するときは出しっぱなしにせず、無駄な水の使用を減らす
- こまめに電気を消し、エネルギーの使用を減らす
- 文化や国籍、性別、性的指向、障がいの有無等に関わらず、周りの人の多様性を尊重し、協力して活動する

他にも、私たちが持続可能性のためにできることは、日常生活の中にもたくさんあります。

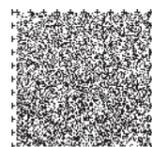
#### 日常生活でできる取り組み例

- 移動するときはなるべく公共交通機関を使う
- マイバッグ・マイボトルなどを持参し、プラスチックなどの使い捨て用品の使用を減らす
- 空調機器の温度を適切に設定する
- 環境に配慮した製品やサービスを選んで購入する
- 持続可能性に関するイベントなどへ積極的に参加し、持続可能性の配慮の大切さを家族や友人に伝える

まずは、「これならできる」と感じたことから行動してみましょう。

東京2020大会に関わる私たち一人ひとりの行動が、「持続可能性に配慮した大会」、そして「持続可能な社会」への一歩になります。

「Be better, together /  
より良い未来へ、ともに進もう。」  
——持続可能な社会の実現に向けて、  
みんなで取り組んでいきましょう!



## 7. 参画プログラム

### 参画プログラムとは

8つのテーマのもとで開催される、幅広い分野の事業・イベントを通じて、東京2020大会にオリンピック・パラリンピックの機運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて取り組むプログラムです。あなたの街や地域で開催される多様なイベントに、ぜひご参加ください!

#### プログラムにおける8つのテーマ

～8つのテーマで、みんなをつなぐ、動かす、そして未来へ～



詳細は、HPをご覧ください。 <https://participation.tokyo2020.jp/>

#### 参画プログラムマーク

参画プログラムに認証された事業・イベントには、東京2020エンブレムの基礎となっている、「多様性」「つながる」「参加」を表す「3つの異なる四角形」を組み合わせたマークが付与されます。

公認プログラム  
マーク



応援プログラム  
マーク



### 文化プログラム

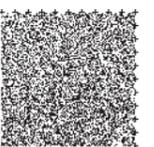
オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに、文化の祭典でもあります。

#### 【東京2020文化オリンピアド】

東京2020組織委員会では、東京2020大会の開催に向け、文化芸術の力で地域を活性化し、若者の参画促進や創造性を育むことで、2020年から先の未来に日本や世界の文化を継承していくことを目指しています。そして、東京2020参画プログラムの一環として、2016年10月より「東京2020文化オリンピアド」を展開しています。



大会1000日前イベントの一環として、「東京2020参画プログラム 文化オリンピアドナイト」を東京駅前幸通りにて開催しました(2017年11月26日)



## Ⅲ. 大会概要

### 【東京2020 NIPPON フェスティバル】

東京2020 NIPPON フェスティバルは、世界の注目が日本・東京に集まる2020年4月頃から9月頃にかけて、東京2020文化オリンピックの集大成として実施される、東京2020大会の公式文化プログラムです。

日本の誇る文化を国内外に強く発信するとともに、共生社会の実現を目指して多様な人々の参加や交流を生み出すことや、文化・芸術活動を通して多くの人々が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、大会に向けた期待感を高めることを目的としています。

#### コンセプト

#### 東京 2020 NIPPON フェスティバル コンセプト

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、  
全国でくり広げられる文化の祭典、それが東京 2020 NIPPON フェスティバルです。  
日本にあらゆる国の人々が集う本大会に先駆けて、  
様々な人と文化が交流する場となるはずで、  
地方と都市。日本と世界。  
あらゆる境界を越え、ひとつとなるその時。  
きっと、かつてない文化が生まれるでしょう。  
きっと、多様性の力と素晴らしさを実感するでしょう。  
きっと、新たな文化と感動が未来につながってゆくでしょう。  
その主役は、私たちひとりひとり。  
そして舞台は、この国のあらゆるまちとまち。  
日本各地の熱気と多様性の融合から、すべては始まります。  
東京 2020 NIPPON フェスティバル。それは、  
この国の新たな可能性を開くフェスティバルです。

#### フェスティバルマーク

フェスティバルマークは、大会エンブレムの制作者である野老朝雄さんにより開発されました。東京2020エンブレムと同じ3種類の四角形を、同じ数組み合わせたマークが描くのは「Harmonized Checker = 調和した市松」です。多様性の調和によって可能性や希望が広がり、新しい輝きを起こしていくことがデザインに込められています。



### 主催プログラム(東京2020組織委員会が行う文化プログラム)

東京2020組織委員会においても、フェスティバルの盛り上がり全国に波及するよう、東京を中心に大規模な文化プログラムを計画しています。

#### 4月頃 キックオフ

#### 大会に向けた祝祭感

東西を代表する無形文化遺産・舞台芸術の融合による世界初の舞台を実現。

#### 7月頃 オリンピック直前

#### 参加と交流

日本文化を通じて、さまざまな人々が交流する場・イベントを創出。

#### 8月頃 パラリンピック直前

#### 共生社会の実現

障がいのある人やLGBTを含めた多様な人々が参画し、街中でアートやパフォーマンス活動などを展開。

#### 5月～7月頃

#### 東北復興

東北各地・東京を舞台とし、国内外へ東北の現在の姿を発信。

### 共催プログラム(国・自治体・文化芸術団体等が行う特別な文化プログラム)

国・自治体・文化芸術団体と連携し、日本の文化・芸術の力を国内外に発信する文化プログラムを全国で展開します。

#### column

#### 東京都の取り組み「Tokyo Tokyo FESTIVAL」

東京都では、前回のリオ2016大会以降、東京2020大会に向けて各文化事業を「東京文化プログラム」として展開してきました。今後のさらなる気運醸成のため、これまで「東京文化プログラム」として実施していた各事業を新たに「Tokyo Tokyo FESTIVAL」としてプロモーションを展開し、国内外への発信力と拡散力の強化を図るとともに、ブランディングに向けて取り組んでいきます。



## Ⅲ. 大会概要

### 教育プログラム「ようい、ドン！」

子どもたちは、全国各地で、東京2020大会の開催に向けたさまざまな形の学びを行っています。そのひとつが教育プログラム。東京2020組織委員会は、子どもたちがオリンピック・パラリンピックそのものの価値やスポーツの持つ力を感じ、学び、将来に向かって成長していくことを目的として東京2020教育プログラム「ようい、ドン！」を展開しています。「スポーツを通して心身を向上させる」「文化・国籍などさまざまな差異を越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って理解し合う」「平和でより良い世界の実現に貢献する」という、クーベルタンが提唱したオリンピズムのほか、パラリンピックの価値（「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」）など、時代や世代を越えて大切にしてほしい理念を子どもたちに伝えていきます。

#### 【「ようい、ドン！」の目指す3つのレガシー（遺産）】

##### 自信と勇気

失敗を恐れず  
自ら行動を起こす人材、  
将来に向かって自信と勇気を  
兼ね備えた人材を育てていく

##### 多様性の理解

障がいの有無、人種、言語等、  
さまざまな違いがあることを  
理解しつつ、ともにつながり、  
助け合い、支え合って  
生きていく力を身に付ける

##### 主体的・積極的な社会参画

東京2020大会を契機に、  
国際社会や地域社会の活動に  
関心を持って、  
主体的・積極的に社会に  
参画できる人材を育てていく

#### 【オリンピック・パラリンピック関連教材】

東京2020組織委員会は、オリンピック・パラリンピック教育に活用できるサポート教材を作成・認定し、ウェブサイトで配布しています。

##### 国際オリンピック委員会公認教材「オリンピック価値教育の基礎(OVEP)」

オリンピックの5つの教育的価値（「努力から得られる喜び」「フェアプレー」「他者への敬意」「卓越性の追求」「肉体、意思、精神のバランス」）を柱とし、オリンピズムの学習方法を示している教材です。



##### 国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」

世界各国の子どもたちに学校教育を通じてパラリンピックの魅力伝えることを目的として開発された教材です。教材の名前「I'mPOSSIBLE」には、「不可能 (Impossible) だと思えたことも、考え方をえたり、少し工夫したりすればできるようになる (I'm possible)」という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージが込められています。



##### オリンピック・パラリンピック学習読本

子ども達がオリンピック・パラリンピックの精神、スポーツ（オリンピック競技、パラリンピック競技・障がい者スポーツ）、文化（日本文化、国際理解・交流）、環境等、オリンピック・パラリンピックに関する基礎的な内容を学び、正しく理解してもらうことを目的として作成された教材です。小学校編・中学校編・高等学校編と、それぞれの年代に合わせた内容となっています。

（作成：東京都教育委員会、編集：東京2020組織委員会）



#### column

##### 東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育

東京都では、2016年度から都内すべての公立学校で「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を展開しており、東京2020組織委員会が定めた東京2020教育プログラム「ようい、ドン！」における学校事業認証を受けています。

本教育は、これまで行ってきた各学校におけるさまざまな教育実践を踏まえ、オリンピック・パラリンピックに関連付けて行うことを基本としています。また、学校における取り組みを大会後も長く続く教育活動として発展させるとともに、子どもたち一人ひとりの心と体にかげがえのないレガシーを残し、共生・共助社会を実現することを目指しています。

具体的には、子どもたちに「重点的に育成すべき5つの資質」を身に付けさせるべく、さまざまな取り組みを実施しています。

#### 【重点的に育成すべき5つの資質】

1. ボランティアマインド
2. 障がい者理解
3. スポーツ志向
4. 日本人としての自覚と誇り
5. 豊かな国際感覚

#### 【4つのプロジェクト】

##### 1. 東京ユースボランティア

各学校における社会奉仕の精神や思いやりの心を養う取り組みを充実するもので、発達段階に応じたボランティア活動を行います。

##### 2. スマイルプロジェクト

子どもたちが、お互いの人格や個性についての理解を深め、思いやりの心を育成する取り組みを行います。

##### 3. 夢・未来プロジェクト

オリンピックやパラリンピック等のアスリート等と子どもたちが直接交流する取り組みを行います。この取り組みを通じて子どもたちがオリンピック・パラリンピックのすばらしさを実感し、スポーツへの関心を高めるとともに、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培っていきます。

##### 4. 世界ともだちプロジェクト

東京2020大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる取り組みを行います。この取り組みにより、世界のさまざまな人種や言語、文化、歴史などを学び、世界の多様性を知るとともに、さまざまな価値観を尊重することの重要性を理解します。

##### 5つの資質を伸ばすための取り組み事例①

スマイルプロジェクトの一環として「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」を開催しています。特別支援学校と小・中・高等学校の子どもたちの交流を図りつつ、障がい者理解の促進と障がい者スポーツへの理解を深めています。

「東京都公立学校  
パラスポーツ交流  
大会(ポッチャ大会)」  
の様子



##### 5つの資質を伸ばすための取り組み事例②

都内の公立学校では、世界ともだちプロジェクトを通して、豊かな国際感覚を身に付けるための取り組みが行われています。例えば、区立の小学校では、スイス大使館の外交官・職員の方をお招きし、スイスの文化、歴史や日本との関わりについて理解を深めました。

スイス大使館との  
交流の様子



# Ⅲ. 大会概要

## column

### 東京都における大会輸送の取り組み —スムーズビズの推進による交通混雑緩和の実現—

東京都は、すべての人々がいきいきと働き、活躍できる社会の実現に向け、東京2020大会の交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント（TDM）<sup>\*</sup>やテレワーク、時差Bizなどの取り組みを「スムーズビズ」と総称し、一体的に推進しています。

企業や、そこで働く皆様に対し、テレワークや時差出勤、計画的な休暇の取得、業務に関連する配送の工夫など、働き方改革と大会時の交通混雑緩和の双方に効果のある取り組みの実施を働きかけ、大会期間中の混雑緩和はもとより、新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルの確立を目指しています。

<sup>\*</sup>TDMとは、交通需要マネジメントのことで、自動車の効率的利用や公共交通への利用転換などによる道路交通の混雑緩和や、鉄道などの公共交通も含めた交通需要調整をする取り組みのことをいいます。



#### テレワーク

ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと

#### 時差Biz

通勤ラッシュ回避のために通勤時間をずらす働き方改革のひとつ

#### 2020TDM

大会開催期間中における交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント

### 2020TDM推進プロジェクト

2018年8月に、東京都、国、東京2020組織委員会は、東京2020大会開催期間中における交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント（TDM）を推進する「2020TDM推進プロジェクト」を発足させました。TDMの推進に向けては、企業を対象とした説明会や個別コンサルティング等を実施しています。

また、本プロジェクトではシンボルマークを作成しています。プロジェクトにご登録いただいたすべての企業が使用できます。



プロジェクト発足式



シンボルマーク

